

教育改善提案書

所属学科名 (または所属課又は団体名) 薬学部
 応募者氏名(代表者氏名) 服部しのぶ

1. 提案名	外国人との交流をとおり、保健・医療・福祉分野で地域に貢献しよう！
2. 趣旨・理由を含めた提案内容の概要	<p>コロナ禍を経て、来日する外国人も増加し、定住化の傾向も高まっている昨今、本学が位置する三重県鈴鹿市は、四日市・津市に次いで外国人住民数が多い。地域に貢献できる大学として、特に、医療系大学で学ぶ学生だからこそできる外国人とその子供たちとの交流を目指す。そして、将来、本学が地域に根差し地域をよく理解する医療人を排出する大学として存続するための学生活動として、以下を提案する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国人(成人・児童・生徒)の健康意識の向上 2. 外国籍児童・生徒への学習支援
3. 提案の具体的な内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外国人の健康意識の向上 <p>外国人は一般的に日本語能力に制限があるため、病院など医療機関への受診を疾病が重症化するまで躊躇することが多い。そこで、未病をはじめとする保健・医療・福祉分野の基本的情報の理解促進のため、外国人コミュニティに出向き、本学学生が専攻分野の知識を活かした疾病予防啓発などのお話会を開催する。</p> <p>例.小学校や中学校などで、本学学生が絵や図表などを用いながら、インフルエンザ感染の仕組みと予防について、わかりやすく説明する。日本人児童・生徒には、幼児期の家庭での絵本読み聞かせや学校教育をとおして既習事項と思われることが、外国籍児童・生徒には家庭でそのような経験をしていなかったり、学校教育での理解不足も予想されたりするため、このような活動は有益と考えられる。実施日によっては、親子で楽しく学ぶ機会にもなる。</p> 2. 児童・生徒への学習支援 <p>上記のような活動をとおして、日本語での学校教育で遅れがちな外国籍児童・生徒の学習支援のニーズを把握し、国際交流財団や NPO など外国人支援をしている団体と協力し、本学学生がチームを組んで、ボランティアあるいは医療人底力教育で、学習支援を実施する。学生の得意な科目などの学習支援をとおして、外国籍児童・生徒にとって、お兄さん・お姉さんの存在となり、彼らのおかれた環境を理解し、学校教育での遅れや心の安寧などを支援する。</p>
4. 期待できる効果	以下、3つの効果が期待される。

1. 学生のコミュニケーション能力の向上

将来の医療現場は患者も含めて、地域にもよるが、かなり多国籍化が進むと考えられる。異文化を理解し柔軟に対応できる力が必要とされるが、それは大学在学中からいろいろな経験をとおして育まれる。語学学習のみならず、実際の交流・実体験ほど影響力が大きいと思われる。そこで、このような活動をとおして、将来の医療現場で対応するかもしれない患者像のさまざまなイメージが深まり、いかに患者にわかりやすく伝えることが難しいかを実感する。そして、どのように工夫したら円滑な意思疎通が図れるのかを意識づけることで、コミュニケーション能力の向上が期待できる。

また、学生がグループを組んで活動することで、学生間の連携・協力などの態度が養われる。

2. 学生の学習理解度の向上

患者にわかりやすく伝えるためには、その事柄を十分理解し平易な言葉や表現で説明することが必要である。専門知識を持たない人に、わかりやすく伝える機会があれば、相手の反応をとおして自分の理解を確認することもできる。上記1のコミュニケーション能力の向上と相まって、人に伝える機会を得てさらに自らの学習の理解が深まる。

3. 大学の認知度の向上

本学学生が地域の人々、特に、児童・生徒と交流することで、保健・医療・福祉分野について社会の理解を深めることに貢献でき、同時に大学の認知度を上げることができる。さらに、それを機に、将来、本学で学び医療職を目指す学生を生み出すことに繋がることも期待できる。